



Title	システム監査の手法による情報投資の評価
Author(s)	岡田, 定
Citation	大阪大学, 1998, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/41180">https://hdl.handle.net/11094/41180</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、<a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	おか だ 定
博士の専攻分野の名称	博 士 (経 済 学)
学 位 記 番 号	第 1 4 0 4 1 号
学 位 授 与 年 月 日	平 成 10 年 5 月 20 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 名	システム監査の手法による情報投資の評価
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 真田 英彦 (副査) 教 授 浅田 孝幸 助教授 小林 敏男

## 論 文 内 容 の 要 旨

情報投資が企業の経営資源のなかで重要な位置を占めるようになった現在、情報システムの有効性が重視されているが、これを評価する具体的な手法は未だ確立していない。そこで、本稿ではシステム監査の手法を適用して情報投資の有効性を評価し、問題があるときは改善を促進したうえで再評価をするための方策を提案する。もっとも、システム監査は、情報システムの有効性を評価するという目的のすべてには対応しておらず、評価の視点が不完全な分野や未確立な分野を残している。しかし、すでに認められているシステム監査の視点を拡張することによってほとんどの分野で評価が可能になり、このような従来のシステム監査では対象にしていなかった分野にシステム監査の範囲を拡張することも本稿の目的のひとつである。

本稿のあらましは、第一に、現在の情報処理環境のもとで評価が必要な分野を明確にする。このため、第 1 章では、情報システムの発展の経緯を踏まえて最近の処理形態を整理し、情報システム部門が処理にあたる基幹システムと一般のユーザ部門が主導する EUC (End-User Computing) とに分類するとともに、運営形態では自社運営とアウトソーシングとに分けたうえで評価の対象とすべき分野を示し、かつこれらの評価にシステム監査の手法を適用する理由を述べる。また第 2 章では、基幹システムのなかには戦略的情報システムを含むことから、この分野の論議をする前提として経営戦略、とりわけ競争戦略と情報システムとの関係について検討する。

第二に、情報システムの問題点を分析する。すなわち第 3 章では、旧来からの処理形態を引き継ぎながら現在も多くの企業で活用されている基幹システムの問題点を分析する。また第 4 章では、このところ急速に普及する傾向にありながら評価の視点が未確立のままになっている処理形態としての EUC および運営形態としてのアウトソーシングの問題点を検討する。

第三に、評価の必要性和評価の手法を検討する。この目的から第 5 章では、自社運営の基幹システムが処理形態と運営形態の双方で他の形態にも共通する基本的な問題をもっているため、基幹システムをとりあげて評価が必要な視点について論議する。そのうえで第 6 章では評価の手法とするシステム監査に関して、その特徴、評価に適用することの可能性、および考慮が必要な条件を検討する。

第四に、システム監査の手法に基づく情報投資の有効性評価の視点を策定し提案する。このため第7章では、基本的な視点としての情報システムの信頼性、安全性、および効率性の評価について、従来型のシステム監査の視点を拡張して検討する。第8章では、費用対効果に関する具体的な評価の視点を策定し、かつ評価にあたって留意すべき点を検討する。また第9章では、EUCとアウトソーシングに独自の評価の視点を策定する。さらに第10章では、戦略的情報システムの評価に関して、システム監査の適用が可能な範囲と限界を検討しながら評価の視点を提案する。

そして第五に、ここまで検討したそれぞれの分野の評価を充足させるための条件を策定するため、第11章では、情報システムの企画、開発、および運用の流れに沿って、さらに拡張的な評価の視点を考察する。

## 論文審査の結果の要旨

情報投資の評価に関する従来の研究は、自社運営の基幹システムにおける費用対効果の定量的分野に限定した分析が中心であり、現在の情報処理形態の主流であるエンドユーザー・コンピューティングおよびアウトソーシングには言及されてこなかった。本論文は、情報投資の有効性向上という観点から、システム監査の手法を拡張的に応用することによって、エンドユーザー・コンピューティングおよびアウトソーシングを含む全ての形態の情報システムについて定量的および定性的な評価の視点を具体的に提案し、かつ問題点を改善するための方策を示している。また、評価の視点ごとに関連する学説等に基づく議論を重ね、信頼性の高い理論を展開している。ただ学説間の整合性に問題がないわけではなく、加えて応用の際の実務手続きの実現可能性に若干疑問が残されている。しかし、本論文を実務に応用することによって創出される社会的価値、さらにはこの分野の研究を飛躍的に促進させた貢献は、評価されなければならない。よって本論文は、博士（経済学）の学位に十分値すると判断する。